
普通の日常？

HELIOS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普通の日常？

【Nコード】

N6894I

【作者名】

HELIOS

【あらすじ】

ごく普通の何処にでも居そうな高校生、光と怜二の普通の日常・・・？

「れーじ、れーじ」

「なんだよ？」

「HRで先生なんて言ってたの？」

「お前また寝てやがったな……」

俺の名前は中野怜二、ごく普通の高校2年生だ。成績も普通（自称）、運動も普通（自称）、ルックスも普通（自称）の絵に描いたような普通の高校生（自称）。唯一普通じゃないのは……後で話そう。

んで、この朝からボケまくっているのは俺の幼馴染兼、彼女の高野光。

黒髪のアイドルとは比べ物にならない位可愛い。何故か小学校の時からずっと同じクラスの腐れ縁だ。

「だつて眠いんだもん」

「だから昨日の夜ネットゲ途中で止めろって言っただよ」

「なんかさ、途中で止めたら負けな気がするんだよね……」

「何に負けるんだよ……」

「ん、自分自身？」

「さっさと負けちまえ！」

「また中野と高野の夫婦喧嘩か？」

「よくやるね、あいつ等も……」

「明日から「アレ」なのにな」

俺と光のボケとツツコミはこのクラスの恒例になってやがるらしい、

でもこいつらは知らない……

「で、先生なんて言ってたの？」

「明日から期末テストだつてさ、赤点は夏休みに補習だと」

「……れーじ今なんて言つた……」

「いや、明日から期末テ「よし岡本先生（担任＆数学）殺そう」

「は！？」

「人間の価値をそんな事で決めるなんて間違つてるよ！！それは悪の考え方だよ！！悪は退治（殺害）しなくちゃいけないんだよ！！貴重な高2の夏を守る為に！！」

「そつだな……貴重な高2の夏を守る為に……勉強しろ！！」

「ひ、酷いよれーじ！私に氏ねつて言うの！？」

「真面目に勉強しろつて言つてんだ！！」

「酷い！あんまりだよれーじ！！」

「酷いじゃねー！さつさと帰つて勉強すんぞ！！」

「いや～～！！」

俺はバカリ（光）の襟を掴んで引きずりながら下校した

「酷いよれーじ！それが新妻にする事なの！？」

「バカ！ここでそんな事言つてんじゃねー！！」

実は、俺と光は本当に結婚している。

なぜ高2で結婚しているのかと言うと、中学の頃から付き合つてはいたのだが、光と俺の両親が転勤で海外に行く事になり、俺らは今の友達と別れなくなつたし、英語なんか話せないの、日本に残ると言つたのだが、高校生の子供を1人暮らしさせる訳にもいかないと言う事で俺らに「海外に行きたくなければ結婚して2人で暮らせ」と強引に結婚させたのだ。俺は小さい頃喘息持ちで学校に行け

なかったため、学年が1年ずれてしまっていたので、現在18歳、光も17歳なので結婚出来てしまったと言う訳だ。

しかし、大っぴらに言うのも色々問題があるので、皆には普通に付き合っているとだけ言っている、真実を知っているのは教師と親戚だけなのだ。卒業したら正式に式を挙げる予定。

「バカって言うほうがバカなんだぞー！」

「お前は小学生か！！大っぴらに言ったら色々不味いだろうが！！」

「あ、そっか」

「はあ・・・」

「そうだ、スーパーよって晩御飯の材料買ってかなきゃ、れーじ何食べたい？」

「カレー以外ならなんでも良いよ（4日連続カレーだったから）」

「じゃあ暑いし冷やし中華にでもする？」

「そだな、さっぱりしてて良いんじゃないの？」

「はい決まり」

俺らはスーパーで買出しをした後、帰宅した

「さーて冷やし中華作ろっと」

「頼んだぞ」

「頼まれた」

午後6時半

「れーじ出来たよ」

「ん、今行く」

俺は勉強を中断し、食卓に着いた

「「いただきまーす」」

「うん、上出来上出来」

「でしょw」

「ごちそうさま」

「おそまつさま」

「なんかデザート欲しいな」

「かき氷でも作る？」

「そだな、俺が作るわ」

「私の分もね」

「はいはい」

ガリガリガリガリガリ

「ほい」

「ありがとう」

「「パクパク」」

キーン

「「来た」」

→かき氷を食べた後に頭に痛みが走るアレ

「さて、お風呂入って寝ようか」
「待てい」

ガシ

「なになな・・・？」

「テスト勉強しろ！」

「れーじ、人には向き不向きと言う物があってね」「だまらっしゃい」
「とりあえずこれやってみろ」

「はう」

「10分後」

「・・・・・・・・・・」

「あははははは・・・・・・・・・・」

「徹夜決定」

「そんなあゝ!?」

「そんなゝじゃねえ!高2にもなって中2の問題間違えるな――!」

「ごめんなさゝい」

「今夜は絶対寝かさないからな!!」

「はう」

「翌日、テスト後」

「中野、お前どうだった?」

「まあまあだな」

「学年1位が何言ってるやがる」

「いや、普通だって」

「お前、今軽く200人は敵に回したぞ・・・・・・・・」

「?」

「まあ良い、それはなんだ」

光を指差して言った

「おはなばだけがみえるよ」

「燃え尽きたんだろ」

「何があつたんだよ高野・・・・・・・・」

「昨日れーじが寝かせてくれなかったんだよ(勉強させられて)」

「・・・・・・・・・・なに!!」
「・・・・・・・・・・」
「↑クラス全員」

「おま、誤解を招く様な「中野!!」テーマ俺らが死に物狂いで勉強している間にナニしてやがった――?」
「↑男子」

「「「中野君不潔!!」」」↑女子
「誤解だーーーー!!」

「れーじ昨日凄く激しくて・・・（勉強の教え方が）」

「「「くたばれ中野おおおおおおおおおお
お!!」」」↑男子全員

「不幸だあああああああああ!!」

「ムニヤムニヤ・・・れーじい・・・大好き・・・」

がたがたがたがががが!! ↑不協和音

これは、そんな俺達の「普通の日常」だ

普通か？

（後書き）

これは高校の時にノートに殴り書きした作品なんですよね
そのノートを引っ張り出してちょこっとリメイクして載せてみました。

ご感想等があったら是非送ってください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6894i/>

普通の日常？

2010年10月9日19時08分発行